

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年12月4日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104969
法人名	東開メディカル有限会社
事業所名	グループホーム灯夢想家
所在地	鹿児島市東開町3-21 (電話) 099-260-3030
自己評価作成日	平成26年10月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年11月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関を関連機関に持ち定期的に往診を受け、緊急時の対応にも適切な指示が得られ、24時間体制で利用者の健康管理を行っている。ターミナルケアの取り組みを行っており、看取りの実績もある。木造造りで明るく、温かみを感じる生活環境がある。又、散歩やドライブ、外食の機会を設け、五感が刺激されるような支援に積極的に取り組んでいる。企業全体として職員の介護キャリア形成へのモチベーションも高く、職員の多くが施設在職中に資格を取得し、勤続している。職員の能力や勤務希望に応じて、関連事業所との連携を図り働く意欲や質の向上に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年目を迎える当ホームは、辺りに大型の商業施設や会社が立ち並び活気のある環境に位置している。同敷地内には系列のクリニックや有料老人ホームも開設されており、24時間医療連携や非常災害時での協力体制も出来ている。特に外出支援には力を入れており、季節ごとの花見や遠出のドライブをはじめ近隣のレストランやバイキング形式のランチなど、目先を替えての外食は利用者の楽しみであり、ホームに閉じこもらない外出支援は家族の感謝の声にも表れている。

職員は管理者を中心に1階、2階の各ユニットリーダーの下、現場での気付きや意見が自由に言い合える良好な関係が出来ており、ストレスを抱えこまない就業環境は利用者に対するケアの質の向上にも繋がっている事が職員の聞き取りからも伺える。

同敷地内の系列のクリニックが20年来に渡り、地域医療の一端を担う医療機関として根付いている事もあり、診察に訪れる地域の患者から院長を通して介護保険や認知症に関する相談を受けるケースも多くある。町内会の情報から地域の夏祭りに出掛けたり、ホーム行事の敬老会には地域のボランティアを受け入れるなどし、折にふれ積極的に地域との交流の機会を多く持てるように努力をしており、少しづつではあるが、協働の関係も築きつつある。

暖かみのある木造りの落ち付ける居住空間で、利用者はごく普通に自宅の延長である様に安心して、ゆったりとした生活を送っているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について、開設時に全職員で話し合い、利用者が地域の中で、ごく普通の生活を送ることができるような理念を作り上げている。また、職員は理念を共有しケアの道標として、実践につなげている。	開設時に職員の意見をまとめたホーム独自の理念を掲げている。理念に添って、木材をふんだんに使った暖かみのある居住空間で自宅の延長の様に普通の生活を送る事を重んじたケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	住宅地が少ない環境の中であるが、道路をはさんだ町内会に加入し地域の行事に積極的に参加している。又、隣接のクリニックに通院する地域の方が立ち寄り事も多い。	職員を通して町内会との関わる機会を得ており、地域行事の夏祭りに出向いたり、ホームの敬老会へ地域のボランティアを受け入れるなど交流の機会を多く持つるように努力をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	見学の際や電話にて、認知症の相談を受けることが多い。事業所の職員は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で利用者様の状況や支援の報告を行い、グループホームのケアで困っている事をメンバーに相談し理解や助言をもらう事でサービスの向上につながっている。	2カ月に置きに開催され、地域包括支援センターや多くの家族参加を得ている。家族へ認知症や看取りの理解を深める啓発や、出席者からは意見や助言を貰い、サービスへの反映に繋げている。今後は新たに出席者の幅を広める為にも多方面に働きかけ、参加の呼び掛けを検討する方向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県及び市の担当者とは、事業所の取組の報告、介護保険諸手続き、福祉手続き等相談しながら関係作りを積極的に行い、協力関係を構築している。	定期的な介護相談員の訪問を受け、日頃の利用者の想いや意向の収集に繋げている。福祉課や地域包括支援センターとも必要に応じ都度、連携を取り情報交換や協力体制が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の中で禁止対象となる具体的な行為がケアの中で行われていないか確認している。問題行動がある場合、アセスメントを徹底し、問題意識を共有し原因を探ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束による弊害を重視し、管理者や各ユニットリーダーは5つの基本ケアで脱「抑制」をテーマに職員に投げかけ、レポート作成を含めた研修を通して身体拘束に対する意識、知識の向上や教育を行っている。現場での気付きはその都度注意し合い改善に向けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、高齢者虐待防止関連法についての研修に参加し、虐待をしないケアのあり方をスタッフ全員で話しあい、虐待が行われない施設作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	想家館に成年後見制度を利用している方がおられるので、ユニット間での情報の共有を通して、本人及び家族や弁護士さんと話し合いながら、個人の権利擁護を行う支援の活用について学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用者の状態変化により、契約解除に至る場合の説明は充分に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、事業所は家族からは意見を頂きながら、話し合い、運営に反映させている。また、介護相談員の訪問を受け、利用者の意見を外部を通して、出された意見から日々のケアに活かしている。	面会時や運営推進会議を通して意見や要望の聞き取りの大切な機会になっている。日々の生活記録の情報も職員で共有し、日頃の利用者の想いや意向の汲み取りも外部を通して行うなどの工夫もしている。今後は利用者の何気ない日常生活が伝わる通信の充実も視野に入れて取り組む方向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが積極的に意見を言い合える環境であり、コミュニケーションも円滑である。代表者・管理者共個別に話を聞く機会を積極的に設け、運営に反映させている。	管理者を中心に各階のユニットリーダーの配置でチームケアが密に採れており、職員は現場での気付きやアイデアなど活発に出し合い、サービスの質の向上に繋げる高い意識を持ってケアに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に来て、スタッフの仕事の状況をみて、管理者や職員、個々の努力や実績、勤務状況を把握して評価を行っている。評価は給与に反映されており、各自が向上心を持って働ける様に職場環境・条件の整備をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員個々のケアの実際を見る事で、個人の力量を把握し、管理者や研修係と共に、法人内外の研修に参加させスタッフ教育に力を入れている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>以前行った複数連携事業の中で出来たネットワークを通じて、相互訪問を行ったり、日々のケアの実践の相談を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族との事前面談を充分に行い、利用者の生活状態を把握することで本人の思いや不安を受け止め、安心して利用開始が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談に来られた際は、これまでの経緯や家族の苦労をゆっくりと聞き、家族がサービスとして何を求めているかを理解し、事業所としてはどのような対応が出来るかを伝え、信頼関係を気付きながらサービス開始につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応に努めている。事業所だけでなく、地域のケアマネジャーと連携しながら必要に応じて、他のサービス期間につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、年長者である利用者から伝統的な家庭料理の作り方や季節の行事、生活の知恵などについて教えられたり、逆にいたわってもらったり、励ましてもらうなどの場面も多く、一緒に過ごし、支えあう関係がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、利用者の状況を伝え、情報を共有する中で、家族が出来る役割を職員と話し合いながら、積極的に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人、近所の方や宗教関係の面会等が来られることがあり、本人の居室でお茶を飲みながらゆっくり時間を過ごしていただけるよう支援をしている。宗教関係の方は一緒に参拝に行き下さる関係がある。また家族との協力の元、定期的に墓参りへの外出支援を行っている。	友人や昔の職場関係者が面会に来る利用者もいる。携帯電話の利用者もおり好きな時に家族や馴染みの人との会話を楽しんでいる。地元の送迎付きの美容室に出掛けたり、家族と墓参りにいくなどし、これまでの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、スタッフ間で情報の共有を行い、ホールでの座る位置の調整を行ったり、お茶や食事の際は一緒に過ごし、多くの会話をもち、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてサービスが終了しても、退去先に訪問して本人や家族の経過を把握して、必要に応じて相談や支援を行っている。また、本人が亡くなっても、家族がホームに遊びに来て下さり、スタッフや他の入居者と共に生前の思い出を語りあったり、ボランティアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のかかわりの中で、個人の思いや暮らし方の希望について感心を示し、把握し情報の共有を行っている。また、把握が困難な方からは、家族や関係者からの情報や本人の表情や日々の行動や生活歴から、本人はどうかとの視点で、気持ちを推し量れるように努めている。	意思確認が可能な利用者も多いが、困難な利用者に対しては筆談や家族からの情報の他、日々の表情や所作から汲みとる努力をし、生活記録や介護相談の活用など大切な手段になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に生活歴やライフスタイル、個性や価値観を把握している。また、本人から伺えない場合は、了解をもらいながら、家族や知人などから、過去の具体的な情報を伝えてもらい、本人の全体像を知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の生活の中で、小さな動作や行動から、本人の出来る力、わかる力を暮らしの中で発見し、その人の全体像を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の身体状況や生活歴、希望を把握し関係者との連携を保ちながら、ケース会議を行っている。その課程の中で、職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。	アセスメントを下に抽出した課題を職員全員で話し合い、利用者、家族の意向も反映した本人本位のプラン作成になっている。3ヶ月置きにモニタリングを実施し計画の達成度、見直しの必要性を検討し現状に即した介護計画の作成をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事、エピソードを記録に残し、職員全員が情報共有できるように、勤務前に記録を読むようにしている。また、共有された情報はケアの実践や介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が高齢であり、医療ニーズが高い事もあり、事業所で医療連携体制をとっており、東開内科クリニックや調剤薬局との医療連携にて、健康支援や看取り介護を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域の民生委員に入ってもらったり、町内会の方にボランティアに来て頂くなど意見交換や交流の場を設けている。また、消防署には、年に2回の消防訓練実施の際に立会いや指導をもらい、協働で施設の防災に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に受診の状況とかかりつけ医の希望を確認し、希望があれば継続して、かかりつけ医の受診が出来るように支援している。受診は家族にお願いしているが、都合が悪い時は、施設にて通院介助している。	入居前からの掛りつけ医の支援もしている。系列クリニックとの24時間医療連携や職員に看護師の配置もあり日常的に健康管理は密に行われており、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護職員を配置し、隣接の病院の看護師とも連携がとれており、日常の健康管理や医療面での相談、助言、対応がスムーズにできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人への支援方法に関する介護サマリーを医療機関に提供し、頻繁に見舞うようにしている。また、家族や医療機関と連携をとりながら、対応可能ならなるべく早期に退院出来るようにアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応に関して、職員の力量や他利用者の状況やチームの連携などの諸条件をふまえつつ、家族、職員の意向を確認しながら、かかりつけ医と連携を取り、随時意思を確認しながら、取り組んでいる。	看取りの実績もあり、重度化や看取りに対応するホームの指針を明文化している。家族に、ホームでできる最大限の支援や体制について説明し同意を得ている。段階に応じて担当者会議を行い家族、協力医療機関等の連携を密にとり方向性の確認を行いながら、ホームでできる最大限の支援に取り組む。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我や骨折、誤嚥、意識不明などの急変時の対処法については、病院や訪問看護スタッフなどの協力でその都度、勉強会を実施し、体験・体得・習得するようにしている。また、夜間等人手が少ない時の応急手当から、その後の連絡、対応方法等についても想定し、それらを身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。関連事業所と合同で行い、利用者と共に避難経路の確認、消化器の使用方法など訓練を行っている。昼夜想定に沿ってカーテンを閉める、灯りを消すなど実際の場面を作り上げ、緊張感を持って取り組んでいる。また防災マニュアルを作成し、あらゆる災害を想定した非常用食料、備品も備えており、定期的に点検している。	同敷地内の系列のクリニックや有料老人ホームと合同で年に2回、夜間帯を中心とした訓練を実施している。自動通報装置には地域の民生委員も登録されており協力依頼が出来る。非常災害時の備蓄や毛布やライトなどの備品も完備済である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については、利用者が不愉快な思いを抱くことがないように、職員間でお互いに指摘し合う関係が出来ており、その都度振り返るよう努めている。記録などの個人情報関係書類については事務所の棚に整理されており適切に管理されている。	1人1人の生活のペースを大切にしている。名前も「さん」付けで呼び、敬意を持った接遇を心掛けており、改善点は都度、職員間で指摘し合い意識を高めている。居室のネームも個人情報に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者一人ひとりの思いや希望を聞き、日常生活の中での活動が、自分で決めたり選べるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な生活時間は設定されているが、利用者の希望に応じて、食事時間をずらすなどの対応をとっている。外出についても希望されない時は職員が一人残ることで対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望に応じて、訪問理美容や行きつけの美容室の利用支援を行っている。また、利用者の能力に応じての身だしなみ支援を個別に行っている。		
40	15	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間ごとに各ユニットで利用者の要望を取り入れながら献立を考え、調理の手伝いをもらいながら利用者と一緒に食事作りを行っている。また季節に応じた食材やメニューを提供し、昔ながらの食材の処理を思いでを聴きながら一緒に行っている。	利用者はお気に入りのマイ箸や茶碗を用意している。出前や外食のランチバイキングなど多様な食の提供形態は食への楽しみを益す工夫が随所で感じ取れる。調理への参加者が多く野菜の下ごしらえや準備などを生き生きとした表情で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の生活介護記録に一人ひとりの食事量を記載し、情報の共有を図ると共に、在宅訪問診療の際に採血結果に基づき食事カロリーや水分の指示など細かく、指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行ったり、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。また、介助者には就寝前に義歯の洗浄や消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや習慣を把握し常に本人にあった下着やオムツを検討している。また事前の声掛けやトイレ誘導を行うことで失敗を減らすなど、排泄の自立支援を心掛けている。	夜間帯もポータブル使用やナースコールの対応で排泄の自立に向けた支援を心掛けている。排泄の個々のパターンを把握し適時の声掛けや誘導で利用者の自信に繋がるトイレでの排泄に向けた支援で現状維持と改善に向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、毎日の散歩や家事活動等で身体を動かしたり、繊維質の多い食材や乳製品を摂取するように食事の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者のその日の体調や気分に応じて、入浴したい日に入ってもらっている。また、入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を試みている。	足を伸ばしてゆったり入れる浴槽や浴室暖房も完備され、急な温度差への負担感の軽減に配慮した浴室になっている。体調に応じ入浴可能日にはいつでも希望に応じて入れる等柔軟な対応で入浴が楽しみな時間になる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて休息や睡眠がとれるように支援している。なるべく、日中の活動を促し、生活リズムを整える事で夜間に安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在宅訪問の薬剤師や隣接のクリニックの看護師に、服薬の注意事項や服薬方法について指導を受けながら、支援を行っている。また症状の変化を観察して、主治医や看護師に報告し速やかな対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味(編み物や計算、しりとりなど)をそれぞれが楽しんだり、日々の言動の中で本人のニーズをくみ取り、役割意識の向上のため自主性を尊重した支援に努めるとともに、利用者の経験や知恵を発揮する場面作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩へ、またその季節に応じた花や風景を眺めに月に1, 2回ドライブへ出かけている。家族との墓参りや外食等、これまでの生活の継続となるような外出支援も、家族の協力を貰いながら行っている。	近隣の散歩や、庭先での外気浴は日常的である。季節毎の花見や地方の道の駅に買い物に出掛ける事もある。毎年恒例の初詣では獅子舞を見学し甘酒や鰻を食べて帰る利用者もいる。外食の機会も多くあり、多様な外出支援は家族から感謝の声が上がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物時にその人の能力に応じてお金を所持したり、買い物に行くことのできない時には、希望を尋ねて代理で買い物を行うことで支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や友人からの電話の引き継ぎや、希望時には手紙のやり取りができるよう支援している。また携帯電話を所持している利用者には必要時には電話を繋ぐ手伝いをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物全体が純木造建築で、木肌のぬくもりと木の香りに包まれた心地よい空間になっている。また、共有空間は常に生活を保ち、生活環や季節感を大事にして、居心地の良い空間作りに努めている。</p>	<p>木材をふんだんに使った構造は木のぬくもりがあり落ち着ける共用空間になっている。ホール全体が清掃も行き届き清潔感がある。利用者らは調理の下ごしらえや塗り絵を楽しむなどし各々がやりがいや楽しみを持ってゆったりとくつろげる共用空間である。窓越しに庭に植えられた実のなる木々や花からも季節を感じとれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室前に腰掛けて気の合った仲間同士で、洗濯物を畳んだり、庭や玄関に椅子を置くことで時には、一人でゆっくり過ごせるように工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビ、位牌、タンスや小物など使いなれた物品が持ち込まれており、今までの暮らしを想像できるような居室になっており、居心地良く生活できるように工夫されている。</p>	<p>洋風の庭と和風の庭に面した居室があり、利用者は各々が思い入れの深い馴染みの家具や位牌などを持ち込み、自宅の一室のような安心してゆったり暮らせるプライベート空間になっている。滑り止めの床材や介助バーなどの設置でリスク対応もなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物は、バリアフリーに配慮されている。また、利用者の状況に応じて居室の滑り止めマットやベッドサイドの介助バー、センサーマットの使用などを行い、安全確保と自立への配慮をしている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない